

札幌国際芸術祭2017

参加アーティスト・会場 追加発表



指輪ホテル



松井紫朗



金市館ビル



札幌宮の森美術館



札幌市円山動物園

札幌国際芸術祭実行委員会では、音楽家の大友良英をゲストディレクターに迎え、今年8月6日に開幕する札幌国際芸術祭2017（略称 ^{サイアフ}SIAF2017）の準備を進めています。

これまで、2016年8月、12月に参加アーティスト計22組とプロジェクトを発表しましたが、このたび、新たに2組の参加が決定しましたのでお知らせします。

札幌出身の羊屋白玉が主宰する「指輪ホテル」は、市民と共に市電を使った演劇をつくり上げ、札幌の街の歴史や生活を見つめ直します。

また、モエレ沼公園ガラスのピラミッドに作品を展示する松井紫朗は、4月に苫小牧市美術博物館で、8月に苫小牧市の若手アーティストによるアートイベント「樽前arty2017」で、それぞれSIAF2017と連動した展示を行い作品の世界を広げます。

そして、SIAF2017の会場として、まちなかエリアの「金市館ビル」、円山エリアの「札幌宮の森美術館」と「札幌市円山動物園」が新たに加わることが決定しました。

SIAF2017は市民や他の地域も巻き込みながら、拡大し続けています。

いよいよ5月上旬には企画の全容を発表します。引き続き、SIAF2017にご注目ください。

アーティスト・プロジェクト発表

指輪ホテル〈日本〉 YUBIWA HOTEL

羊屋白玉（北海道出身）が、劇作と演出、ときどき俳優をつとめる「作品の連続体」。旅をしながら演劇作品の制作や上演を行っている。劇場公演の他、国内外の芸術祭に招聘され、公演会場であるその土地に根付いた物語や歴史をもとに、その場所ならではの野外作品を手がけている。主な作品に、2001年同時多発テロの最中、ニューヨークと東京をブロードバンドで繋ぎ、同時上演した「Long Distance Love」をはじめ、近年では、瀬戸内国際芸術祭2013では海で、いちばらアート×ミックス2014では鉄道で、大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2015では雪崩よけのスノーシェッドで公演した「あんなに愛しあったのに」、瀬戸内国際芸術祭2016での「讃岐の晩餐会」など。

<http://www.yubiwahotel.com>



指輪ホテル（芸術監督：羊屋白玉） 撮影：野村 佳紀子

都市と市電プロジェクト×指輪ホテル

公演日時：2017年9月23日（土・祝）、24日（日）
会場：市電内



撮影：鏡開 のり子

アーティストと市民が共同で市電の新たな活用を考え、札幌独自の暮らしや営みの顕在化を試みる「市電プロジェクト～都市と市電～」。その一つとして、アーティスト「指輪ホテル（芸術監督：羊屋白玉）」による、市電や、その沿線の周辺地域を舞台とした演劇公演を実施します。今回は、市電周辺エリアならではの風景、人、物、出来事に注目し、時には市電の車内で、時には車窓からの風景の中で、それらの要素を指輪ホテル独自の観点で演出に盛り込み演劇を制作します。また、作品制作にあたっては、パフォーマンスの参加はもちろんのこと、美術や衣装の制作、映像撮影などの様々な形で市民の方々と一緒に作品をつくりあげることを目指して展開します。

松井 紫朗〈日本〉 MATSUI SHIRO

1960年 奈良県天理市生まれ。京都市立芸術大学教授。1983年の初個展以来、多様な素材、ユーモアと理知を備えた独自の立体造形で兵庫県立美術館の「ART NOW 85」展に選出されるなど、関西ニューウェイブを担う若手のひとりとして注目を集める。1991年よりシリコンラバーによる作品の制作を開始。1997年にテント用の素材を使った大作《The Way to the Artwork is Through the Stomach》を発表後、スパンディクスやリップストップと呼ばれるナイロン素材のバルーンを使ったサイトスペシフィックな作品を次々と展開。自然科学の原理を応用した作品で、人間の知覚や空間認識に揺さぶりをかける。JAXA (宇宙航空研究開発機構)との共同実験では宇宙での庭作りや、容器に詰めた宇宙空間の持ち帰りを試みる。2014年からアートプロジェクト「手に取る宇宙 地上ミッション」を各地で展開している。

<http://www.shiromatsui.com>

会場：モエレ沼公園ガラスのピラミッド (札幌市東区モエレ沼公園1-1)



撮影：小牧 寿里

札幌国際芸術祭2017プレイベント 松井紫朗レクチャー「穴のふしぎ」

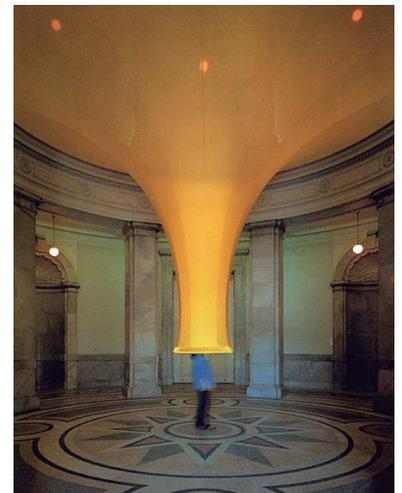
日時：2017年4月30日(日) 13時～

会場：札幌市資料館 (札幌市中央区大通西13丁目)

入場：無料

※事前申込不要。当日会場へ。

遠くのと場所と、今この場を繋ぐ、「穴」の存在。松井紫朗は作品制作を通して、我々が日常で捉えている時間や空間の概念を、引き延ばしたり反転させたりという不可思議な実験を試みています。今回は、近年、積極的に展開している自然科学の原理を使ったバルーン状の構造の作品の仕組みを、作家本人が「穴」をキーワードに、体験型レクチャーという形式で解説します。また、この春から夏にかけて、松井が参加する4つの展覧会について、各担当者が参加するトークイベントも行います。



撮影：上野 翔宏

追加会場

金市館ビル 札幌市中央区南2条西2丁目1

SIAF2017では梅田哲也による新作が展示される。
札幌の中心部大通地区にあり、東西に延びる「狸小路商店街」と南北に延びる「二番街商店街」に囲まれたビル。1970年の開業以来、百貨店やスーパーなどとして、昔から広く札幌市民に親しまれてきた。SIAF2017では、このうちの1フロアを展示会場として使用する。



札幌宮の森美術館 札幌市中央区宮の森2条11丁目2-1

SIAF2017では、石川直樹による作品が展示される。
20世紀後半以降の文化、芸術に関する美術館として、2006年4月、宮の森ミュージアム・ガーデン (MMG) 内に総合開館。絵画・写真、立体造形など、多岐にわたる貴重な作品や資料の有効活用、調査研究を、質の高い展覧会やイベントの開催を通して実現している。また、国内外の関係機関との連携を深めながら、活用される開かれた美術館として、活動の場を広げている。



©MMMAS

札幌市円山動物園 札幌市中央区宮ヶ丘3-1

SIAF2017ではクワクポリョウタによる新作が展示される。
1951年に北海道では初めての動物園として開園。約170種900点の動物を飼育・展示している。札幌市の中心部からほど近くにあるながら、円山原始林に隣接した豊かな自然に囲まれた同園は、子どもから大人まで楽しめる憩いの場となっている。
また、ホッキョクグマやヨウスコウワニなど希少動物の繁殖に数多く成功するとともに、野生動物の保護活動や環境保全活動に力を入れており、環境教育の拠点としてメッセージを発信しつづけている。



○お問い合わせ

札幌国際芸術祭事務局 (広報担当: 石田・岡本・山岸)
〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市国際芸術祭担当部内

TEL: 011-211-2314 FAX: 011-218-5154 E-MAIL: press@siaf.jp Web: <http://siaf.jp>
Facebook: <https://www.facebook.com/siaf2014info> Twitter: https://twitter.com/siaf_info